

第62回日本児童青年精神医学会総会

—困難さを抱え、強みを活かす—

会長：今村 明（長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部 教授）

会期 ライブ配信日：2021年11月13日（土）

オンデマンド配信期間：2021年11月14日（日）～12月11日（土）

代議員会（オンライン）2021年11月7日（日）

会員集会（オンライン）2021年11月13日（土）

後援：長崎県・長崎市・佐世保市

第62回総会に関するお問い合わせ

第62回日本児童青年精神医学会総会 運営事務局

〒850-0057 長崎市大黒町9-22 大久保大黒町ビル本館8階

株式会社コンベンションリンケージ内

TEL：095-825-1955 FAX：095-825-1956

Email：jscap62@c-linkage.co.jp

総会HP： <http://child-adolesc.jp/meeting/62/>

学会HP： <http://child-adolesc.jp/>

学会事務局 〒603-8148 京都市北区小山西花池町1-8 (株)土倉事務所内

TEL：075-451-4844 FAX：075-441-0436

E-mail: jde07707@nifty.com

第62回日本児童青年精神医学会総会

— 困難さを抱え、強みを活かす —

第62回日本児童青年精神医学会総会は、2021年11月11日（木）～13日（土）、長崎ブリックホール／長崎新聞文化ホールで開催する予定でしたが、新型コロナウイルス蔓延の影響で、同年11月13日（土）ライブ配信、11月14日（日）～12月11日（土）オンデマンド配信という形式でWEB開催となりました。豊かな観光資源のある長崎の地で、皆様にお会いできるようなればと願っていましたが、とても残念に思っております。

長崎県では、2003年、2004年、2014年と重大な少年事件が起り、詳細な振り返りからその背景として子どもたちの生来の傾向（神経発達症など）と、家庭や学校、地域社会などの環境とのミスマッチが生じていたことがわかりました。そのために子どもたちの生来の特性を人生の早期から理解し、その後の愛着形成の障害やトラウマ関連症状の重篤化を防ぐために、多機関で子どもたちに寄り添い、継続的な支援を行うことが必要と考えられました。本総会でもこのような発達・愛着・トラウマの問題と地域での連携・継続的な支援について取り上げていければと考えております。

今回の総会のテーマは「困難さを抱え、強みを活かす」です。私たちが会おうすべての子どもたちは、困難さと強みを併せ持っているものと思います。たとえば神経発達症を持つ子どもは、社会的コミュニケーションの障害、限局性・反復性、不注意、多動性・衝動性など様々な「困難さ」を有していますが、その反面、独特の発想力、好きなことに没頭する力、知的好奇心、活動性の高さ、アイデアの豊富さなどの「強み」もみられる場合があります。もちろんすべての子どもが他児より優れている点を持っているわけではありません。しかし「成長していこうとする力」、「ポジティブな方向に進んでいこうとする力」はすべての子どもに共通するものと思います。このような子どもに元々備わっている力に肯定的な視線を向け、育んでいくことを当診療部の目標としており、本総会でもそのようなテーマをできるだけ取り入れていきたいと考えております。

現在、新型コロナウイルスによる災禍により、世界中の人々が先の見えない不安や閉塞感を感じているものと思います。このような状況で、子どものうつや不安に関連する症状や児童虐待、ゲーム依存症などの行動嗜癖が増加することが懸念されています。今回の学会総会では、このような現代の子ども達の心の問題点に関しても、できるだけ取り組んでいきたいと考えております。

今回のポスターは、神経発達症当事者の方に描いていただきましたが、世界新三大夜景に数えられる長崎の夜景に「明けない夜はない」というメッセージが込められています。できるだけ多くの方にご参加いただき、一緒に学んでいける機会となれば幸いに存じます。

（第62回日本児童青年精神医学会総会会長 今村明）

参加者へのご案内

本学術総会は、WEB 配信（ライブ配信とオンデマンド配信）を併用する WEB 開催形式での開催といたします。

※ライブ配信とは、インターネットを利用して WEB 上でリアルタイムに講演を視聴していただく形式のことです。

※オンデマンド配信とは、講演動画や発表スライドをご自分のパソコン等で、一定の期間、見たい時に見たいコンテンツをインターネット上で自由に再生し、視聴していただく形式のことです。

※上記ライブ配信とオンデマンド配信をあわせ、インターネット上で実施する形式を WEB 開催と表現しております。

※特別講演や大会企画シンポジウム・教育講演などの一部の指定講演は、双方向性のライブ配信で予定しています。

※原則すべてのセッションは、オンデマンド配信での視聴を可能といたします。オンデマンド配信は、あらかじめ演者に発表データを作成して頂き、それをサーバーにアップロードするかたちで提出いただきます。

※現地での開催はありませんので、演者を含む参加者は、会場に足を運ぶ必要がありません。

1. WEB 開催期間

ライブ配信日：2021 年 11 月 13 日（土）

オンデマンド配信期間：2021 年 11 月 14 日（日）～ 12 月 11 日（土）

2. 参加受付

受付期間

2021 年 8 月 2 日（月）～ 11 月 1 日（月）

入金期日：11 月 1 日（月）

※指定期日（11 月 1 日）までに払い込みのない場合は、申し込みは無効となります。

参加費

参加費 10,000 円（会員、非会員）

参加登録および参加費を納入いただいた方にのみ、WEB 開催のページにログインが可能となる ID とパスワードを発行いたします。

第 62 回総会の抄録集について

例年同様、印刷物の発行はございません。抄録本文は第 62 回総会ホームページの日程・抄録より閲覧いただけます。

※抄録閲覧用 ID XXXXXXXXXX、パスワード XXXXXXXXXX（2021 年 12 月 31 日まで）

※会員の方は、期限なく当学会ホームページの会員サイトより閲覧することができます。

参加登録の手順

総会ホームページから受付を行ってください。

- 1) 参加申込みフォームに必要事項を入力していただきます。
- 2) 参加費を、【クレジットカード決済】または【銀行振込】のいずれかでお支払いいただきます。インターネット申込みにて、そのまま WEB 上で決済ができます。銀行振込はご請求額をお確かめの上、下記の大会口座にお振込みください。
- 3) お支払いが完了いたしますと、登録アドレス宛てに「参加申込受付完了メール」が自動送信されますので、内容をご確認ください。メールが届かない場合、内容に誤りがあった場合は、運営事務局までご連絡ください。
※複数名一括や、登録者以外の名義でのご入金の場合は、必ず運営事務局までご連絡ください（振込人名と申込者が異なる場合、入金の確認がとれません）。
※振込手数料は各自でご負担願います。
※参加費振込みの確認が取れ次第、参加登録完了とさせていただきます。
※入金確認までに少々お時間を頂く場合もございますので、何卒ご了承ください。
※納入された参加費は、事務局の事情で学会が開催されない場合を除いて、いかなる理由があっても返金には応じかねますので、予めご了承ください。
- 5) 領収書は、受付期間終了後に、メール配信による電子発行を予定しています。
- 6) 参加証明書は、電子発行となります。WEB 開催のページにログインすると、視聴サイトから出力していただく予定です。紛失やお忘れによる参加証の再発行には対応できかねますので、ご注意ください。

3. オンライン参加の仕方

参加登録（支払い完了）された方には、WEB 開催のページにログインが可能となる ID とパスワードを発行いたします。

質疑応答の方法

視聴サイト内の質疑応答欄へのテキスト書き込みを通じた発表者－参加者間のやりとりとなります。

ライブ配信は、リアルタイムで参加者と質疑応答を行っていただきます。

オンデマンド配信での発表者は、開催期間中、書き込まれる参加者からの質問に、できるだけ返答を書き込んでいただけますようお願いいたします。

視聴にあたってのお願い

視聴サイトにおいて掲載されるすべての内容の著作権は、発表者に帰属いたします。掲載内容（文章、画像、映像、音声など）の一部およびすべてについて、無断で複製、転載または配布、印刷など、第三者の利用に供することを禁止いたします。

4. 単位取得

- 1) 本会では、以下のセッションを「日本精神神経学会精神科専門医」「子どものこころ専

門医」の単位対象セッションとして申請しております。詳しくは各学会・団体へお問合せください。

WEB 開催サイト上にて、単位希望を選択した方のみ、WEB 配信期間終了後に、希望された方の視聴記録を各申請先事務局へ提出いたします。単位取得を希望される方は必ず選択してください。

○日本精神神経学会精神科専門医（B群）

・教育講演、シンポジウムを1つの受講につき1単位、本学会では上限3単位まで取得可能です。

○子どものこころ専門医

・1つの受講につき1単位が取得可能です。

<単位対象セッション>

セッション名	日本精神神経学会専門医	子どものこころ専門医
シンポジウム1～11	○	○
教育講演1～13	○	○

2) 公益財団法人 日本臨床心理士資格認定協会について

臨床心理士」有資格者の資格取得後の教育・研修にかかる研修機会として、本会は承認されております。研修証明書として参加証明書をご提出ください。

<付与ポイント>

・講師参加：4ポイント、発表者：4ポイント、学会参加：2ポイント

5. 会員集会

会員の皆様に学会活動につき報告いたしますので、万障繰り合わせの上ご参加賜りますようお願い申し上げます。

日時：11月13日（土）AM9：00～

会場：オンライン

司会・発表者へのご案内

■発表の種類

発表には、ライブ配信とオンデマンド配信がございます。

ライブでのご発表方法、および動画の作成方法および提出方法につきましては、個別にご案内いたします。

ライブ配信	インターネットを利用してWEB上でリアルタイムにご発表いただきます。
オンデマンド配信	あらかじめ講演動画や発表スライドご提出いただき、配信期間中、視聴可能といたします。

セッション名	配信内容
会長講演、特別講演、教育セミナー、教育講演、シンポジウム、委員会セミナー	講演収録動画もしくは音声付 Power Point による動画など
一般口演	講演収録動画もしくは音声付 Power Point による動画など
ポスターセッション	スライドデータ (PDF 形式)

WEB 配信期間中、アップロードされた発表データはダウンロードできないよう設定しておりますが、「スマホでの撮影」や「PC のスクリーンショット」を防ぐことはできませんので、ご承知おきいただきますようお願いいたします。配信期間終了後は、すべての発表データは責任を持って消去いたします。

■質疑応答の方法

視聴サイト内の質疑応答欄へのテキスト書き込みを通じた発表者-参加者間のやりとりとなります。

ライブ配信は、リアルタイムで参加者と質疑応答を行っていただきます。

オンデマンド配信での発表者は、開催期間中、書き込まれる参加者からの質問に、返答を書き込んでいただくことができます。

■講演動画の取り扱いについて

視聴サイトにおいて掲載されるすべての内容の著作権は、発表者に帰属いたしますので、作成した動画をその後、別の目的（講演会やご本人のホームページ上で公開）で発表者自身が用いることは問題ありません。その際、総会でのプログラムであることを明記していただきますよう、お願いいたします。

■利益相反の開示

- 1) 会員・非会員の別を問わず学会発表者（筆頭発表者）は自身の COI 状態を発表スライドの最初（または演題・発表者を紹介するスライドの次）またはポスターの最後に開示してください。
- 2) 学会発表者（筆頭発表者）は利益相反申告書を学会事務局に郵送してください。

前文

日本児童青年精神医学会は、1996年8月の世界精神医学会総会において採択された「マドリッド宣言」と1999年8月の同総会で承認された倫理ガイドライン特別項目を基本にして、ここに会員の遵守すべき倫理綱領を制定する。

今日、国内外において子ども（児童及び青年）の精神保健をめぐる深刻な問題が多様に出現しており、その背景には家族・学校・地域社会における人間関係や慣習、生活環境、文化の変貌等がある。そのため、児童青年精神科医をはじめとして臨床と実践の仕事に携わる専門家への期待が世界的に高まっている。

さらに、精神科医療、保健、福祉、教育、司法等対人援助分野の専門性に対する社会の意識も大きく変化し、各分野の専門家と子どもとの関係のあり方、治療・援助方法などに変更を求め、研究上また临床上において新たな倫理的基準を求めようになってきた。

医療は、癒しのサイエンスであり、かつアートである。この組み合わせのダイナミクスは、精神的に病み、また障害をもつものを保護し、ケアし、治療することを専門とする精神科医療、とりわけ児童青年期精神科医療において顕著に現れている。ここでは、治療的介入や研究活動が子どもの心身の機能および人権に対して侵襲的なものにならないよう十分な配慮が必要である。

1（基本原則）

児童青年期精神科医療は、子どもの精神障害などに対して、最良の治療を提供し、かつ精神的に悩む人達のハビリテーション、精神保健を含めた予防医学的活動の推進、心身の発達支援を目指す児童青年精神医学を中心とした学際的領域である。

会員は、子どもに対して習得した科学的知識と臨床経験並びに倫理的原則に調和した最高の治療・援助を提供するよう努める。

会員は、契約関係にある子どもへの制限が最小限になるような治療的介入を工夫し、必要があれば他分野との連携を積極的に図る。また、会員は保健資源の公正な配置に注目し必要があればその改善のために努力する。

2（会員の義務）

会員は、この分野の科学的知識・技術の習得の義務とともに最新の知識を他に伝達する義務をもつ。また、研究に従事する会員には、科学的に未開拓な領域の発見と検証に努力する義務がある。

3（国際協力）

会員は、国際的視野と見地の下で臨床と研究を進めるとともに、国内外の専門家と協力して世界の子どもの精神保健の維持と改善に努力する。

4（発達する存在への配慮）

会員は、治療や援助の対象としている子どもが急激な発達の変化の途上にあることに十分に留意しなければならない。

子ども期は発達上の個人差が著しく、症状の変化も激しい時期にあるので評価は慎重でなければならないし、薬物の使用などの医療的処置やその他の臨床的対応にも慎重でなければならない。

契約関係にある子どもが年少であったり、障害のために的確な判断ができない場合は、会員は保護者と十分に話し合いを行い、子どもの人間としての尊厳と権利を保護するために法的助言を求める。治療援助を行わなければ、子どもまたは子どもの周囲の人達、あるいは両者の生命と安全を危険に晒すことになるという場合を除いて、会員は子どもまたは保護者、あるいは両者の意思に反した治療はいかなるものも行うべきではない。

5 (インフォームド・コンセント)

会員が一人の人を調査・評価する場合、その目的、その結果の用途、その結果によって起こり得る影響を、調査・評価される当事者および／または保護者に告知・説明し、理解・了承を得る努力をする義務がある。会員が第三者的状况にかかわっているような場合、これは特に重要である。会員は、諸種の事情で契約関係にある子どものインフォームド・コンセントを得られない場合であっても、アセントを得る努力はするべきである。

治療・援助過程において、子どもとその保護者はまさしくパートナーとして認められるべきである。治療・援助者と子どもおよび保護者との関係は、子どもおよび保護者が十分な情報を得た上で自由に自己決定ができるように、相互信頼と尊敬に基づかなければならない。また、会員は、子どもとその保護者が自身の個人的価値と考えに基づいて合理的な決定ができるように、必要な情報を提供していかなければならない。

6 (守秘義務)

治療・援助関係の中で得られた情報は守秘されるべきであり、その子どもの精神保健の改善にのみ用いられるべきで、それ以外に使用してはならない。

会員は個人的理由で、また経済的あるいは学問的な利益のために、契約関係にある子どもに関する情報を本人や家族の了解なしに使用することも禁じられる。

守秘義務の不履行は、秘密を保持することによってその子どもや保護者または第三者が重大な身体的・精神的な危害を被る可能性が高い時にのみ妥当とみなされる。しかし、こうした状況の時も、会員はできるだけ子どもがとるべき行動について、先ず子どもまたはその保護者に助言すべきである。

7 (職責上の人権侵害行為 (パワー・ハラスメント) の禁止)

会員は、いかなる理由があっても職責上、子どもや保護者に対してセクシャル・ハラスメントなどのパワー・ハラスメント行為をしてはならない。また、会員はパワー・ハラスメント行為と誤解されないように自己の行為に対して日常的に配慮する必要がある。

8 (研究上の留意事項)

子どもを対象とする研究を行う場合、会員は研究の計画と実施に関する国内または国際的ルールに従う。ここでいう研究とは臨床研究、疫学研究、社会的研究、生物学的基礎研究などを含む。

子どもは、心身ともに急激な発達の途上にあるため、研究対象とする場合には彼らの精神的・身体的安全性についてはもちろんのこと、その自律性の保護には特別な注意を払う必要がある。

会員が研究を行う場合、原則としてその研究計画書を各施設の倫理委員会に提出し、その審議と承認を得てから行わなければならない。

この倫理綱領の内容が、施設における倫理委員会の規定と矛盾する場合には、より患者の利益を優先した判断を下すべきである。

施設内に倫理委員会が設置されていない場合においても、何らかの形で倫理的検討を行う必要があり、その経緯を記録に残す必要がある。

付記

- 1 この学会基本理念と倫理綱領は、国内外における研究と臨床の進展、ならびに関連する領域の規範の変化に応じて、再検討される。
- 2 臨床研究上遵守すべき規範については、日本精神神経学会が承認(1997年5月30日)した「臨床研究における倫理綱領」を当面準用する。
- 3 一般社団法人への変更に伴って平成25年9月8日に改正。

第62回日本児童青年精神医学会

2021年11月13日(土)【ライブ配信日】

	A会場	B会場	C会場	D会場
8:00				
8:30				
9:00	9:00 ~ 10:00 開会式 会員集会			
9:30				
10:00	10:00 ~ 10:40 学会賞授与式	10:00 ~ 12:00 シンポジウム1 「子どものアディクシ ョン」 司会：館農 勝 吉川 徹 演者：河邊憲太郎 吉川 徹 野間 俊一 青山 久美	10:00 ~ 12:00 シンポジウム2 「これからの障害児福祉 制度の在り方を考える —エビデンスに基づく仕 組みづくりを目指して」 司会：本田 秀夫 辻井 正次 演者：内山登紀夫 本田 秀夫 辻井 正次 指定発言：日詰 正文 小林真理子	
10:30				
11:00	10:50 ~ 11:50 会長講演 司会：飯田 順三 演者：今村 明			
11:30				
12:00				
12:30		12:15 ~ 13:15 共催セミナー1 共催：大塚製薬株式会社	12:15 ~ 13:15 共催セミナー2 共催：ヤンセンファーマ 株式会社	
13:00				
13:30	13:30 ~ 14:30 特別講演1 司会：今村 明 演者：ちばてつや	13:30 ~ 14:30 特別講演2 司会：熊崎 博一 演者：杉山登志郎	13:30 ~ 14:30 特別講演3 司会：小澤 寛樹 演者：林 修一郎	
14:00				
14:30				
15:00	14:45 ~ 16:45 福祉に関する委員会 「途切れない家族支援 のあり方—養育者と子ども を支える—」 司会：上野 千穂 小林真理子 演者：立花 良之 奥野 洋子 信田さよ子	14:45 ~ 16:45 シンポジウム3 「強度行動障害の医療は 進んでいるか？」 司会：會田 千重 演者：児玉 匡史 鈴木 実穂 山下 健 指定発言者：松崎 貴之 井上 雅彦 市川 宏伸	14:45 ~ 16:15 シンポジウム4 「子どものトラウマ治療 について」 司会：亀岡 智美 田中 究 演者：亀岡 智美 齋藤 梓 大河原美以	14:30 ~ 17:00 「生涯教育に関する委員 会セミナー」 「第11回臨床研究教育 セミナー」 司会：佐藤 晋治 司会：田中 容子 演者：池之上辰義 演者：伊吹 友秀
15:30				
16:00				
16:30				
17:00		17:00 ~ 18:00 共催セミナー3 共催：塩野義製薬株式会社 ／武田薬品工業株式会社	17:00 ~ 18:00 共催セミナー4 共催：ノーベルファーマ 株式会社	
17:30				
18:00	18:05 ~ 18:15 ライブ開会式/次期総会会長挨拶			

会長講演

子どもの心の医療系支援者を目指して一長崎で取り組んできたことー

司会：飯田 順三（医療法人南風会万葉クリニック子どものこころセンター絆、日本児童青年精神医学会 代表理事）

演者：今村 明（長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部）

特別講演

特別講演 1

ぼくが子どもだったころー引き揚げ体験から漫画家になるまでー

司会：今村 明（長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部）

演者：ちばてつや（文星芸術大学 学長／マンガ専攻 教授）

特別講演 2

発達性トラウマ障害と複雑性PTSD親子への家族併行治療

司会：熊崎 博一（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部 児童・青年期精神保健研究室）

演者：杉山登志郎（福井大学 子どものこころの発達研究センター）

特別講演 3

児童思春期精神分野に関する今後の取組～地域で受け止められる仕組みづくり～

司会：小澤 寛樹（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻展開医療科学講座 精神神経科学）

演者：林 修一郎（厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課）

教育セッション

教育セッション 1

COVID-19 パンデミックにおける凸凹生活

司会：今村 明（長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部）

演者：山田 隆一

教育セッション 2

当事者の漫画と言葉で表された発達障害の世界

ー「発達障害の私の頭の中は忙しいけど何だか楽しい」（なずなさん著）を通してー

演者：松本喜代隆（さんクリニック）

教育講演

教育講演 1

思春期 自閉スペクトラム症（ASD）のためのソーシャルスキルトレーニングー UCLA 「PEERS」

演者：山田 智子（一般社団法人 SSTAR）

教育講演 2

TEACCH の現在

演者：梅永 雄二（早稲田大学 教育・総合科学学術院 教育学部）

教育講演 3

ADHD に対するコーチングのこれまでとこれから

演者：武田 瑞穂（十文字学園女子大学 教育人文学部 心理学科）

教育講演 4

学校、家庭、オプトメトリストが連携し、ビジョントレーニングを実施して、
お子さんの QOL の改善に関わることができた事例紹介

演者：中村 尚広（両眼視スキルアップ研究所、尚時堂株式会社）

教育講演 5

ダウン症候群の現在

演者：近藤 達郎（みさかえの園総合発達医療福祉センターむつみの家）

教育講演 6

児童思春期の摂食障害

演者：宇佐美政英（国立国際医療研究センター国府台病院 児童精神科）

教育講演 7

子どもの支援・治療に活かすストレングスモデル

演者：井上 祐紀（福島県立矢吹病院）

教育講演 8

心的外傷後成長（PTG: Posttraumatic Growth）研究は児童青年精神医学にどう貢献できるか

演者：宅 香菜子（ミシガン州 オークランド大学 心理学部）

教育講演 9

ポジティブ・ペアレンティング

演者：島井 哲志（関西福祉科学大学心理科学部心理科学科）

教育講演 10

神経発達症を遺伝子から理解する

演者：森本 芳郎（長崎大学病院 精神神経科学教室）

教育講演 11

自閉スペクトラム症のトラウマ関連障害への対応について

演者：服巻 智子（Minds & Hopes）

教育講演 12

大学における発達障害学生の特性、困難と心理的支援

演者：吉田 ゆり（長崎大学 人文社会科学域（教育学系））

教育講演 13

不登校への心身医学的アプローチ（ゲーム症・摂食障害等を含む）

演者：小柳 憲司（長崎県こども医療福祉センター）

シンポジウム

シンポジウム 1

子どものアディクション

司会：館農 勝（ときわ病院・ときわこども発達センター）

司会：吉川 徹（愛知県医療療育総合センター中央病院 児童精神科）

S1-01 子どもの行動のアディクション ネット依存の今

河邊憲太郎（愛媛大学大学院医学系研究科 分子・機能領域 精神神経科学講座）

- S1-02 デジタルゲームへのアディクション
吉川 徹（愛知県医療療育総合センター中央病院 児童精神科）
- S1-03 摂食障害とアディクション
野間 俊一（のまこころクリニック）
- S1-04 児童精神科における物質関連障害の治療
青山 久美（横浜市立大学附属市民総合医療センター 精神医療センター）

シンポジウム 2

これからの障害児福祉制度の在り方を考える－エビデンスに基づく仕組みづくりを目指して

司会：本田 秀夫（信州大学医学部 子どものこころの発達医学教室）

司会：辻井 正次（中京大学現代社会学部）

- S2-01 障害児相談支援の現状と課題
内山登紀夫（大正大学心理社会学部 臨床心理学科）
- S2-02 特別児童扶養手当（知的障害・精神の障害用）の認定事務の適正化に向けた調査研究
本田 秀夫（信州大学医学部 子どものこころの発達医学教室）
- S2-03 療育手帳基準の全国統一をめぐる：知的障害を施策の上でどう位置づけるのか。
辻井 正次（中京大学現代社会学部）
指定発言：日詰 正文（独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園）
指定発言：小林真理子（山梨英和大学 人間文化学部 人間文化学科）

シンポジウム 3

「強度行動障害の医療は進んでいるか？」

Is there progress in the medical treatment of Challenging Behavior?

司会：會田 千重（国立病院機構 肥前精神医療センター）

- S3-01 精神科救急での強度行動障害医療の課題
児玉 匡史（地方独立行政法人 岡山県精神科医療センター）
- S3-02 地域・クリニックでの強度行動障害医療
鈴木 実穂（医療法人 慈圭会 すがのクリニック）
- S3-03 一般精神科病棟での強度行動障害を伴う知的発達障害児（者）に対する可能なアプローチの検討
山下 健（独立行政法人府立病院機構 大阪精神医療センター）
指定発言者：松崎 貴之（厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課）
指定発言者：井上 雅彦（鳥取大学大学院医学系研究科 臨床心理学講座）
指定発言者：市川 宏伸（日本発達障害ネットワーク）

シンポジウム 4

子どものトラウマ治療について

司会：亀岡 智美（兵庫県こころのケアセンター）

司会：田中 究（兵庫県立ひょうごこころの医療センター）

- S4-01 トラウマフォーカスト認知行動療法
亀岡 智美（兵庫県こころのケアセンター）
- S4-02 ~~思春期青年期の子どもに対するPE療法実施の工夫について~~ 思春期青年期の子どもに対する持続エクスポージャー療法実施の工夫について
齋藤 梓（目白大学心理学部 / 公益社団法人被害者支援都民センター）
- S4-03 過去の記憶の再処理を行うEMDR療法－母と子のトラウマの連鎖をたちきる－
大河原美以（大河原美以心理療法研究室）

シンポジウム 5

COVID-19 感染拡大下の子どもと養育者のメンタルヘルス

S5-01 COVID-19 を子どもたちにどう伝え、どう支えるのか

堀内 史枝（愛媛大学医学部附属病院）

- S5-02 COVID-19 感染拡大下の子どもと養育者のメンタルヘルス
岡田 俊 (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部)
- S5-03 COVID-19 感染拡大下の子どもたちへの精神科医療
宇佐美政英 (国立国際医療研究センター国府台病院 児童精神科)
- S5-04 コロナ禍における子どもへのトラウマインフォームドアプローチ
田中 恭子 (国立成育医療研究センター 児童・思春期リエゾン診療科)
- S5-05 COVID-19 感染拡大下における地域資源としての学校で行える取り組みは何か
藤岡 徹 (福井大学 教育・人文社会系部門 教員養成領域 発達科学講座)

シンポジウム 6

発達障害医療で地域の診療所ができること

司会：大高 一則 (大高クリニック)

司会：大嶋 正浩 (メンタルクリニック・ダダ)

- S6-01 小児科における地域発達診療の特徴と児童精神科診療所に望むこと
小林潤一郎 (明治学院大学心理学部 教育発達学科)
- S6-02 クリニックによる地域児童診療と問題点～全国×(機関数)の診療所へのアンケートから～
原田 剛志 (医療法人悠志会パークサイドこころの発達クリニック)
- S6-03 地域における成人発達障害診療とその限界
米田 衆介 (明神下診療所)
- S6-04 発達障害支援施策の現状と児童精神科診療所への期待
河村のり子 (厚生労働省 障害児・発達障害者支援室長)
指定発言：神尾 陽子 (お茶の水女子大学, 人間発達教育科学研究所)

シンポジウム 7

自閉スペクトラム症 (ASD) の感覚特性を掘り下げる：ASD 者の適応機能向上を目指して

司会：小坂 浩隆 (福井大学医学部精神医学)

司会：岩永 竜一郎 (長崎大学子どもの心の医療・教育センター)

- S7-01 感覚プロフィールを ASD の人たちの支援にどう活用するのか。
辻井 正次 (中京大学現代社会学部)
- S7-02 自閉スペクトラム症の聴覚情報処理特性へのセンサリーフレンドリーな配慮
高橋 秀俊 (高知大学医学部 寄附講座 児童青年期精神医学)
- S7-03 自閉スペクトラム症者の嗅覚特性に着目する意義
熊崎 博一 (国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 児童・予防精神医学研究部 児童・青年期精神保健研究室)
- S7-04 自閉スペクトラム症の多様な感覚処理パターン
山本 直毅 (長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経学)
- S7-05 ASD 児者への感覚の問題への作業療法士の取り組み
岩永竜一郎 (長崎大学子どもの心の医療・教育センター)
指定発言：小坂 浩隆 (福井大学医学部精神医学)

シンポジウム 8

地域での児童精神科育成：オンライン講習会、寄附講座同士の連携など

司会：高橋 秀俊 (高知大学医学部 寄附講座 児童青年期精神医学)

司会：齊藤 卓弥 (北海道大学病院 精神科神経科)

- S8-01 **未定** 北海道大学における児童青年期精神科医療の連携と人材育成について
齊藤 卓弥 (北海道大学病院 精神科神経科)

- S8-02 福井大学における児童青年精神科医研修プログラムの5年間、そして、今後の課題
鈴木 太 (福井大学 先進部門 子どものこころの発達研究センター 児童青年期こころの専門医
育成部門)
- S8-03 ~~未定~~ 長野県と信州大学医学部の共同による神経発達症の地域支援を担う人材育成
本田 秀夫 (信州大学医学部 子どものこころの発達医学教室)
- S8-04 高知県における児童青年期精神科の地域医療連携体制の整備と人材育成について
高橋 秀俊 (高知大学医学部 寄附講座 児童青年期精神医学)
指定討論：今村 明 (長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部)

シンポジウム 9

アタッチメント障害と不安・うつ

司会：山下 洋 (九州大学医学部精神科神経科 子どものこころの診療部)

司会：藤林 武史 (西日本子ども研修センターあかし企画官・早稲田大学)

- S9-01 アタッチメントと情緒応答性の視点からみた思春期の精神科医療
生地 新 (北里大学大学院医療系研究科 発達精神医学)
- S9-02 トラウマフォーカスト認知行動療法におけるアタッチメントの視点
亀岡 智美 (兵庫県こころのケアセンター)
- S9-03 メンタライジング・アプローチの視点からいじめられっ子を対象とした集団療法をふりかえってみる
渡部 京太 (広島市こども療育センター 児童精神科)
- S9-04 社会的養護とアタッチメント：社会的養護における思春期青年期の子どもの治療と支援について
山根 謙一 (九州大学医学部精神科神経科 子どものこころの診療部)
指定討論：藤林 武史 (西日本子ども研修センターあかし企画官・早稲田大学)

シンポジウム 10

長崎での地域連携司法精神医学 } 司会：今村 明 (長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部)

司会：宮田 雄吾 (医療法人カメラ大村共立病院)

- S10-01 少年鑑別所の地域援助業務
近藤 淳哉 (長崎少年鑑別所)
- S10-02 児童相談所の加害児への対応と支援
樋口 昌巳 (長崎県佐世保こども・女性・障害者支援センター)
- S10-03 家庭裁判所の業務と関係機関との連携
木村耕一郎 (長崎家庭裁判所)
症例提示：宮田 雄吾 (医療法人カメラ大村共立病院)
指定発言：大塚 俊弘 (長崎県精神医療センター)
指定発言：柿田多佳子 (学校法人純心女子学園 長崎純心大学 人文学部 こども教育保育学科)

シンポジウム 11

~~未定~~ (詳細は HP をご確認ください)

Parent-Child Interaction therapy (PCIT) の現状と今後の発展について

司会：齊藤 卓弥 (北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門)

- S11-01 親子相互交療療法 Parent-Child Interaction Therapy: PCIT
—発達障害からドメスティックバイオレンスまで、子どもの「問題行動」と親の「子育て困難」引き受けます
加茂 登志子 (若松町こころとひふのクリニック/日本PCIT研修センター)
- S11-02 インターネットPCITイニシャルワークショップに参加して～大学病院でPCITを導入するにあたっての問題も含めて～
中右 麻理子¹、須山 聡²、柳生 一自²、齊藤 卓弥²
(北海道大学病院 精神科神経科、2. 北海道大学病院 児童思春期精神医学研究部門)
- S11-03 自閉スペクトラム症 (ASD) の子ども達へのPCITの実践～ときわこども発達センターでの取り組み
館農 幸恵 (特定医療法人さつぼろ悠心の郷ときわ病院 ときわこども発達センター)
- S11-04 メンタルクリニックでのPCIT (親子相互交療療法) の実践と課題
加藤 知子 (かとうメンタルクリニック)
- S11-05 児童福祉領域におけるPCITの実践と課題
小平 かやの (東京都児童相談センター)

委員会セミナー

子どもの人権と法に関する委員会パネルディスカッション

「家庭裁判所の機能について」

司会：安藤久美子（聖マリアンナ医科大学 神経精神科学教室）

司会：定本ゆきこ（京都少年鑑別所 医務課）

児童相談所と家庭裁判所が求める子どもの未来とは

演者：上野 千穂（京都市第二児童福祉センター診療所）

家庭裁判所の機能について

演者：益田 浄子（福岡家庭裁判所）

家庭裁判所の機能

演者：進藤 千絵（藤井・梅山法律事務所）

福祉に関する委員会セミナー

途切れない家族支援のあり方ー養育者と子どもを支えるー

司会：上野 千穂（京都市第二児童福祉センター診療所）

司会：小林真理子（山梨英和大学 人間文化学部 人間文化学科）

周産期における途切れない家族支援のあり方について

演者：立花 良之（国立成育医療研究センターこころの診療部 乳幼児メンタルヘルス診療科）

親になる前の支援ー青年期中期、青年期後期の被虐待児への支援の経験から

演者：奥野 洋子（熊谷神経クリニック）

より弱い存在を支援するー加害と被害が交錯する中で

演者：信田さよ子（原宿カウンセリングセンター）

教育に関する委員会セミナー

コロナ禍における学校教育の現状と課題教育

司会：小野 和哉（聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室）

司会：若子 理恵（豊田市こども発達センター）

コロナ禍、子どものメンタルヘルスへの影響

～教育委員会との連携による大規模調査から分かること～

演者：和久田 学（公益社団法人 子どもの発達科学研究所）

医療現場におけるコロナ禍の子どもの精神的問題

演者：中土井芳弘（四国こどもとおとなの医療センター）

長崎における地域連携での子どものメンタルヘルスへのサポート

演者：岩永竜一郎（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 保健学専攻）

コロナ禍における児童生徒の自殺等対策について

演者：鈴木 慰人（文部科学省初等中等教育局児童生徒課）

倫理委員会セミナー

私たちの直面する臨床倫理～子どもの意思決定支援を中心に～

司会：高橋 秀俊（高知大学 医学部寄附講座 児童青年期精神医学）

司会：井上 祐紀（福島県立矢吹病院）

小児医療における倫理的問題～意思決定に関わる課題を中心に

演者：瀧本 禎之（東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻 医療倫理学分野）

神奈川県立こども医療センターにおける倫理コンサルテーションチームの実践報告

演者：庄 紀子（神奈川県立こども医療センター 児童思春期精神科）

災害対策委員会セミナー

児童精神科での医療機関 COVID-19蔓延のなか児童精神科での医療機関で何が起きていたか？

司会：柴田真理子（兵庫県立尼崎総合医療センター 精神科）

司会：中西 大介（三重県立子ども心身発達医療センター）

COVID-19 と摂食障害

演者：中土井芳弘（四国こどもとおとなの医療センター）

小児総合病院における COVID-19 を巡ってのコンサルテーション・リエゾン

演者：菊地 祐子（神奈川県立精神医療センター 思春期精神科）

コロナ禍における小児逆境体験と児童精神科入院治療

演者：岩垂 喜貴（駒木野病院 精神科）

COVID-19 と強迫症

演者：小平 雅基（総合母子保健センター愛育クリニック）

国際学会連絡・国際交流基金運営委員会セミナー 「新型コロナ禍で、どの様な影響を子供たちに与えたか；
「新型コロナ禍で、どの様な影響を子供たちに与えたか」 世界の状況について」

Mental health of children and adolescents in relation to COVID-19 around the world

司会 (Chairperson)

Yukiko Kano (金生 由紀子)

Department of Child Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, University of Tokyo

(東京大学大学院医学系研究科 こころの発達医学分野)

解説 (Commentator) 演題 1, 2 ; 柿元、演題 3, 4 ; 中村

Machi Kakimoto (柿元 真知)

Mie Prefectural Medical Center for Child Growth, Development and Disability

(三重県立子ども心身発達医療センター)

Kazuhiko Nakamura (中村 和彦)

Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University Graduate School of Medicine

(弘前大学大学院医学研究科 神経精神医学講座)

総合討論 (Discussion)

Takuya Saito (齊藤 卓弥)

Department of Child and Adolescent Psychiatry, Graduate School of Medicine, Hokkaido University

(北海道大学大学院医学研究院 児童思春期精神医学分野)

総括 (Discussant)

Yoshiro Ono (小野 善郎)

Wakayama Mental Health and Welfare Center (和歌山県精神保健福祉センター)

演者 (Speakers)

1. "Coronavirus disease 2019 (COVID-19) pandemic and children's mental health in Japan"

Tomoko Shimanouchi (島内 智子)

Department of Psychiatry, St.Marianna University, School of Medicine

(聖マリアンナ医科大学神経精神科)

2. "Influence on Mental Health by Coronavirus Pandemic"

Ema Saito,

Donald & Barbara Zucker School of Medicine at Hofstra/Northwell

Director, Inpatient Services, Zucker Hillside Hospital, USA

3. "Mental health consequences among adolescents during COVID-19 pandemic in Indonesia"

Tjhin Wiguna,

Child and Adolescent Psychiatry Division, Department of Psychiatry, Faculty of Medicine

Universitas Indonesia, Dr. Cipto Mangunkusumo General Hospital, Jakarta-Indonesia

4. "Impact of the COVID-19 pandemic on children in India"

Lakshmi Sravanti,

Consultant Child & Adolescent Psychiatrist, Aahaya Hospital, Bengaluru, India

薬事委員会セミナー

~~子どもの睡眠とその障害~~ **子どもの睡眠障害**

司会：松本 英夫（東海大学医学部総合診療学系精神科学）

~~子どもの睡眠障害~~ **子どもの睡眠とその障害**

演者：岡田 俊（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 知的・発達障害研究部）

注意欠如多動症（ADHD）に伴う睡眠障害

演者：根来 秀樹（一般財団法人 信貴山病院 ハートランドしぎさん）

自閉スペクトラム症に伴う睡眠障害への薬物療法

演者：辻井 農亜（近畿大学医学部精神神経科）

夜間の行動上の問題と睡眠衛生指導

演者：宇佐美政英（国立国際医療研究センター国府台病院 児童精神科）

不安・抑うつと睡眠障害

演者：藤田 純一（横浜市立大学精神医学教室）

心理職に関する委員会セミナー

子どもの心の見立てとケア心理職初心者のマストスキル

司会：小平 雅基（総合母子保健センター愛育クリニック）

司会：本多 奈美（東北大学大学院教育学研究科教育心理学講座・臨床心理学分野）

発達障害関連領域

演者：桑野 恵介（株式会社スペクトラムライフ）

トラウマ関連領域について

演者：福田 理尋（岡山県精神科医療センター）

医療関連領域

演者：中里 容子（明治大学子どものこころクリニック）

教育関連領域におけるマストスキル

演者：岡田 智（北海道大学大学院教育学研究院 子ども発達臨床研究センター）

生涯教育に関する委員会セミナー

第 11 回臨床研究教育セミナー

司会：佐藤 晋治（大分大学大学院教育学研究科教職開発専攻）

司会：田中 容子（府中刑務所）

その研究はやる必要あるんですか？：文献検索なしでは倫理的な研究はできませんよ

演者：池之上辰義（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 / 滋賀大学データサイエンス学部）

児童・青年を対象とした臨床研究を行う上で知っておきたい研究倫理のこと

演者：伊吹 友秀（東京理科大学）

令和2年度学会賞記念講演

優秀論文賞

長期間にわたって食事、歩行、会話、セルフケアを拒絶した女児の入院治療の経験
～広汎性拒絶症候群（Pervasive refusal syndrome）の診断的意義と多職種連携について～
受賞者：伊藤 一之（静岡県立こども病院 こころの診療科）

研究奨励賞

Developmental changes in attention to social information from childhood to adolescence in autism spectrum disorders: a comparative study
受賞者：藤岡 徹（福井大学教育学部）

共催セミナー

共催セミナー 1 共催：大塚製薬株式会社

「腸内細菌叢の視点から神経発達症を考える」

司会：小坂 浩隆（福井大学医学部精神医学）

演者：三上 克央（東海大学医学部総合診療学系精神科学）

共催セミナー 2 共催：ヤンセンファーマ株式会社

「ADHDの診断と治療をめぐる課題：現状と近年の知見を踏まえて」

司会：金生由紀子（東京大学大学院医学系研究科）

演者：岡田 俊（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部）

共催セミナー 3 共催：塩野義製薬株式会社 / 武田薬品工業株式会社

「注意欠如多動症（ADHD）のライフコースと臨床ニーズに応じた薬物療法の選択
—思春期以降の多様な病態と感情調整に対する介入—」

司会：松本 英夫（東海大学医学部 総合診療学系 精神科学）

演者：山下 洋（九州大学病院 子どものこころの診療部）

共催セミナー 4 共催：ノーベルファーマ株式会社

神経発達症を診るときには睡眠も！～睡眠障害という困難さを抱える子どもたち～

司会：今村 明（長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部）

演者：堀内 史枝（愛媛大学医学部附属病院 子どものこころセンター・精神科）

一般演題（口頭発表）

自閉スペクトラム症（ASD）

O-01 感覚異常および消化器症状が ASD（自閉スペクトラム症）/ADHD（注意欠如・多動症）患児の問題行動に与える影響

○黒川 駿哉^{1,2}、野村 健介²、澤江 幸則³、岩永 竜一郎⁴、岸本 泰士郎¹

1. 慶應義塾大学医学部 精神神経科学教室、
2. 島田療育センター児童精神科、
3. 筑波大学体育専門学群、
4. 長崎大学医学部保健学科

O-02 自閉症スペクトラム者の過集中の特異性の検討 主観的な体験を通して

○松本 恵¹、三好 紀子^{2,3}、金井 講治³、森 愛実⁴、池田 学³

1. 大阪大学大学院連合小児発達学研究科 行動神経学・神経精神医学寄附講座、
2. 大阪大学大学院連合小児発達学研究科附属属子どものこころの分子統御機構研究センター、
3. 大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室、
4. 大阪大学医学部付属病院 子どものこころの診療センター

O-03 社会的情報への注視が1年後の社会性に与える影響：定型発達幼児を対象にした縦断研究の結果

○藤岡 徹^{1,2}、小坂 浩隆^{2,3,4}

1. 福井大学教育学部、
2. 連合小児発達学研究科、
3. 福井大・精神医学、
4. 福井大・子どものこころの発達研究センター

O-04 横浜市港北区において7歳までに自閉スペクトラム症と診断された子どもの20年間の縦断的出生コホート研究（Y-LABiC Study）：社会生活基本調査を用いた新たな転帰尺度の開発

○岩佐 光章²、清水 康夫²、篠山 大明³、今井 美保⁵、大園 啓子²、植田 みおり^{1,7}、原 郁子⁶、本田 秀夫^{1,2}

1. 信州大学医学部子どものこころの発達医学教室、
2. 横浜市総合リハビリテーションセンター、
3. 信州大学医学部精神医学教室、
4. 信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部、
5. 横浜市西部地域療育センター、
6. こころ発達クリニック新横浜、
7. 特定非営利活動法人ネスト・ジャパン

O-05 自閉スペクトラム症の豊かな世界—サヴァン 1. 当院での調査

○石田 理恵¹、川崎 葉子¹、猪野 民子¹、坂井 和子¹、水野 薫¹、三島 卓穂³、高柳 みずほ²、丹羽 真一⁴

1. むさしの小児発達クリニック、
2. 有沢橋病院精神科、
3. いちよう企画、
4. 福島県立医科大学 会津医療センター・精神医学講座

O-06 自閉スペクトラム症の豊かな世界—サヴァン 2. 当院のサヴァン例

○猪野 民子¹、川崎 葉子¹、石田 理恵¹、坂井 和子¹、水野 薫¹、三島 卓穂²、高柳 みずほ³、丹羽 真一⁴

1. むさしの小児発達クリニック、
2. いちよう企画、
3. 有沢橋病院精神科、
4. 福島県立医科大学 会津医療センター・精神医学講座

O-07 自閉スペクトラム症の豊かな世界—サヴァン 3. カレンダーサヴァンの検討

○川崎 葉子¹、猪野 民子¹、坂井 和子¹、石田 理恵¹、水野 薫¹、三島 卓穂²、高柳 みずほ³、丹羽 真一⁴

1. むさしの小児発達クリニック、
2. いちよう企画、
3. 有沢橋病院精神科、
4. 福島県立医科大学 会津医療センター・精神医学講座

- O-08 自閉スペクトラム症児の知的能力と向社会的行動との関係についての予備調査
○砂田 桃、長尾 海里、櫻田 千早、戸瀬 景茉、上月 遥、磯部 昌憲、上床 輝久、村井 俊哉、
義村 さや香
京都大学大学院医学研究科
- O-09 【取り下げ】急速交代型双極性障害を併発した自閉スペクトラム症児童の治療経過
○井上 勝夫、神谷 俊介
北里大学医学部地域児童精神科医療学
- O-10 自閉スペクトラム症に対する対人関係のスキル向上を目的とした認知行動療法の開発
蟹江 絢子
国立精神・神経医療研究センター
ライブペアレントコーチを行い自閉症状の劇的改善をみた2歳男児の症例
- O-11 ~~ライブペアレントコーチを行い自閉症状の劇的改善をみた2歳男児の一例~~～アーリースタートデ
ンバーモデルペアレントコーチ（P-ESDM）を実施後、親子相互交流療法トドラー（PCIT-T）を実
施した症例
○館農 幸恵¹、白石 映里¹、南波 江太郎^{1・2}、館農 勝^{1・2}
1. ときわこども発達センター、2. ときわ病院
- O-12 子どもの行動チェックリストに基づく自閉スペクトラム症の情緒や行動の問題に関する研究
○香月 大輔、高田 加奈子、松本 美菜子、山根 謙一、山下 洋
九州大学病院 子どものこころ診療部
- O-13 身体症状を呈した自閉症スペクトラム児の治療経過中における知能検査の変化の検討
○三好 紀子^{1・2}、松本 恵^{1・3}、金井 講治¹、池田 学¹
1. 大阪大学大学院医学系研究科 精神医学、
2. 大阪大学大学院連合小児発達学研究科子どものこころの分子統御機構研究センター、
3. 大阪大学大学院連合小児発達学研究科行動神経学・神経精神医学寄附講座
- O-14 横浜市港北区において7歳までに自閉スペクトラム症と診断された子どもの20年間の縦断的出生
コホート研究（Y-LABiC Study）：データベース作成
○本田 秀夫^{1・2}、清水 康夫²、岩佐 光章²、篠山 大明³、今井 美保⁴、大園 啓子²、
植田 みおり^{1・5}、原 郁子⁶
1. 信州大学医学部子どものこころの発達医学教室、2. 横浜市総合リハビリテーションセンター、
3. 信州大学医学部精神医学教室、4. 横浜市西部地域療育センター、
5. 特定非営利活動法人ネスト・ジャパン、6. こころ発達クリニック新横浜

注意欠如・多動症（ADHD）

- O-15 診察で自分の問題が話題になると妨害行為をする注意欠陥多動症の患児とその親へのソリューション・フォーカスト・アプローチの治療効果の検討～12例の症例集積研究～
○宋 大光¹、久保 洋一郎²、金沢 徹文²
1. 宋こどものこころ醫院、2. 大阪医科薬科大学神経精神医学教室
- O-16 日常診療におけるオンラインゲームへの課金に関する相談内容についての調査
○関 正樹¹、吉川 徹²、高岡 健³
1. 大湫病院、2. 愛知県医療療育総合センター中央病院 子どものこころ科、
3. 岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター 発達精神医学研究所

0-17 持続性注意課題遂行時の sluggish cognitive tempo の瞳孔径に関する予備的研究

武田 俊信

龍谷大学文学部 臨床心理学科

0-18 自己記入式児童用 sluggish cognitive tempo 尺度日本語版の信頼性および妥当性の検討

○武田 俊信¹、辻 由依²、末田 慶太郎³、柳生 一自⁴、中島 陽大⁵、橋本 竜作⁶

1. 龍谷大学文学部 臨床心理学科、
2. 札幌学院大学、
3. 札幌市子ども心身医療センター児童精神科、
4. 北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門、
5. 洛和会音羽病院臨床心理室、
6. 北海道医療大学

統合失調症関連

0-19 3q29 欠失を有し統合失調症と診断された4症例の報告

○名和 佳弘¹、久島 周¹、加藤 秀一¹、木村 大樹¹、阪野 正大²、橋本 亮太³、菱本 明豊⁴、尾崎 紀夫¹

1. 名古屋大学医学部附属病院 精神科・親と子どもの心療科、
2. 医療法人交正会 精治療病院 精神科・神経科、
3. 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部、
4. 横浜市立大学附属病院 精神科・児童精神科

0-20 microRNA-4300 遺伝子欠失を伴う思春期発症ペントシジン蓄積型統合失調症の一例

○吉川 茜^{1,2}、久島 周^{3,4}、尾崎 紀夫⁴、新井 誠²

1. (現) 順天堂大学医学部精神医学講座、
2. 東京都医学総合研究所 精神行動医学分野、
3. 名古屋大学医学部附属病院 ゲノム医療センター、
4. 名古屋大学・大学院医学系研究科 精神医学・親と子どもの心療学分野

摂食障害

0-21 神経性やせ症の入院身体治療プロトコールの標準化と治療成績

○倉田 和美¹、中村 博大^{1,2}、柳橋 達彦^{1,2}、稲川 優多²、阿部 隆明¹、福田 周一²、日下部 康弘^{1,2}

1. 自治医科大学子どもの心の診療科、
2. 自治医科大学精神科

0-22 神経性やせ症の発症から入院治療導入までの期間に影響を与える因子

○中村 博大^{1,2}、柳橋 達彦^{1,2}、倉田 和美²、稲川 優多¹、福田 周一¹、阿部 隆明²

1. 自治医科大学精神医学講座、
2. 自治医科大学付属病院 こどもの心の診療科

0-23 思春期神経性無食欲症における近赤外線スペクトロスコピー (NIRS)

○石岡 希望^{1,2}、岡崎 康輔¹、山室 和彦¹、山口 泰成¹、水井 亮¹、濱野 泰光^{1,4}、金田 東奎^{1,3}、疇地 崇広⁴、岸本 直子¹、浦谷 光裕¹、太田 豊作⁵、飯田 順三⁶、牧之段 学¹

1. 奈良県医科大学精神科医局、
2. 奈良県総合リハビリテーションセンター 精神科、
3. やまと精神医療センター 精神科、
4. 奈良県総合医療センター 精神科、
5. 奈良県立医科大学 看護学科人間発達学、
6. 万葉クリニック 子どものこころセンター 絆

0-24 ~~神経性やせ症と診断された思春期児童とソーシャルネットサービスとの関連~~

水野 友美

摂食障害の身体・精神面とソーシャルメディアとの関連

国立病院機構 三重病院

0-25 家族構造の変化により改善した神経性やせ症の9歳女児例

○大島 由季代^{1,2}、柳生 一自¹、前田 珠希¹、中右 麻理子¹、須山 聡¹、齊藤 卓弥¹

1. 北海道大学病院精神神経科、
2. 東京都立小児総合医療センター

- 0-26 入院治療中の思春期・青年期の摂食障害患者に対する MSSM 法の活用について
○櫻田 千早¹、長尾 海里²、砂田 桃⁴、戸瀬 景栄⁴、上月 遥²、磯部 昌憲²、義村 さや香³、上床 輝久²、村井 俊哉²
1. 京都大学医学部附属病院臨床心理室、2. 京都大学医学部附属病院精神科、
3. 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻作業療法学講座、
4. 京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座精神医学教室

入院治療

- 0-27 新規場面や対人不安の強い自閉スペクトラム症児が集団参加できるまで
～段階的なあそびプログラムの有効性～
○青山 奈央、鷺野 千秋、中島 弘道、金井 剛
三重県立子ども心身発達医療センター
- 0-28 児童思春期病棟における作業療法士の役割について
○上西 章人、山口 洋介、中園 明、堀川 直希
医療法人コミュニテ風と虹 のぞえの丘病院
- 0-29 子育て環境を子ども対応表で再構築する取り組み～大人が変われば子どもも変わる～
○山本 あすか¹、金井 剛¹、大立 博昭²、坂谷 政子¹
1. 三重県立子ども心身発達医療センター、2. 鳥取大学医学部附属病院精神科
- 0-30 入院加療を行った脱抑制性愛着障害女児の一例：逆境的小児期体験から家庭への復帰に難渋した女児の支援について
○大立 博昭¹、大槻 一行²
1. 鳥取大学 医学部附属病院 精神科、2. 三重県立子ども心身発達医療センター
- 0-31 児童思春期病棟開設2年目の実践報告、第3報
～のぞえの丘病院における児童思春期患者の精神科救急的な役割～
堀川 直希
医療法人コミュニテ風と虹 のぞえの丘病院

外来・入院統計

- 0-32 近畿大学病院に搬送された20歳未満の自殺企図者の背景 第2報
○中田 翼、辻井 農亜、谷 緑、丹羽 篤、山形 祥礼、土屋 有希、三川 和歌子、橋本 衛
近畿大学医学部精神神経科学教室
- 0-33 児童青年期の自殺関連事象とその周辺に関する COVID-19 感染流行前後の外来統計比較
○武越 百恵^{1・3}、藤田 純一^{1・3}、青木 芳子^{1・3}、青山 久美^{2・3}、浅沼 和哉^{2・3}、宇賀神 北斗^{2・3}、菱本 明豊^{1・3}
1. 横浜市立大学附属病院児童精神科、
2. 横浜市立大学附属市民総合医療センター精神医療センター、3. 横浜市立大学精神医学教室
- 0-34 児童青年期メンタルクリニックにおける治療脱落の要因について
○土岐 茂¹、浅田 護^{1・2}
1. 医療法人あさだ会 第2心療クリニック コモリエ、2. 医療法人あさだ会 浅田心療クリニック

虐待・愛着・トラウマ関連

- 0-35 措置入院制度を用いた被虐待児の入院治療の経験 –多組織を跨ぐ共同作業–
吉岡 真吾
愛知県精神医療センター
- 0-36 当院児童精神科部門における性暴力被害児の入院治療の特徴
古橋 功一
独立行政法人国立病院機構 東尾張病院
- 0-37 黒い影の正体を探る
吉村 淳
東北医科薬科大学病院
- 0-38 家族全体でトラウマを経験した際の子どものトラウマ治療に関する一考察 その1
–子どもに先行して親のトラウマ治療を行うことの意義–
○山口 貴史¹、小平 雅基²、齋藤 真樹子¹
1. 愛育クリニック医療福祉室、2. 愛育クリニック小児精神保健科
- 0-39 「家族全体でトラウマを経験した際の子どものトラウマ治療に関する一考察 その2
–年少児に TF-CBT を実施する際の工夫と課題について–
○齋藤 真樹子¹、小平 雅基²、山口 貴史¹
1. 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター 愛育クリニック 医療福祉室、
2. 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター 愛育クリニック 小児精神保健科
- 0-40 岩手医科大学附属病院児童精神科におけるトラウマフォーカスト認知行動療法施行 36 例の検討
○松尾 菜津美、八木 淳子、山家 健仁、吉岡 靖史、内出 希、柿坂 佳菜恵、三浦 光子、小川 香織、
久保 崇人、石川 千穂、響 江吏子
岩手医科大学附属病院 児童精神科
- 0-41 虐待ケースにおける「乖離状況」という視点の有用性（家族を抱える機能）
○川畑 友二、奥 薫、高木 駿、林 さち子
クリニック川畑

精神療法・心理療法

- 0-42 遠隔面接を用いた強迫症女子に対する認知行動療法
○高橋 美和¹、小平 雅基²、齋藤 真樹子³
1. 総合母子保健センター 愛育相談所、
2. 総合母子保健センター 愛育クリニック 小児精神保健科、
3. 総合母子保健センター 愛育クリニック 医療福祉室
- 0-43 マインドフルネスの効果に関する呼吸の意義（文献からの考察）
○端谷 毅、楠 慧
はしたにクリニック
- 0-44 登校への動機づけが低い不登校の患児と登校を期待する母へのシステムズアプローチに基づく精神療法の1症例
○上田 健斗、宋 大光
医療法人不動心 宋こどものこころ醫院

O-45 呼吸法によりパーソナリティ障害が改善した患者（症例報告）

端谷 毅

はしたにクリニック

O-46 ゲーム症に対するボードゲームを用いた保護者参加型集団精神療法の実践

○字賀神 北斗¹、青山 久美¹、浅沼 和哉¹、藤田 純一²、古賀 大吉³、山本 恭平⁵、戸井田 真木⁴、
宮崎 秀仁¹、青木 芳子²、古野 拓¹、菱本 明豊^{1・2}

1. 横浜市立大学附属市民総合医療センター、
2. 横浜市立大学附属病院、
3. 教育ネット総合研究所、
4. 沼津中央病院、
5. 神奈川県立精神医療センター

心理社会的援助・家族支援

O-47 自閉スペクトラム症をもつ中高生を対象とした友だち作りのプログラム PEERS

～オンライン版の試み～

○井澗 知美¹、西牧 陽子¹、木下 実咲²

1. 大正大学、
2. 湘南学園中学校高等学校

O-48 家族全体を抱える心理支援の在り方について

○高木 駿、川畑 友二、奥 薫、林 さち子

クリニック川畑

学校精神保健

O-49 子どもの自殺予防～子どもの主観的健康感の調査を通して～

○岡田 倫代¹、中土井 芳弘²、藤川 愛³

1. 高知大学大学院総合人間自然科学研究科教職実践高度化専攻、
2. 四国こどもとおとなの医療センター児童精神科、
3. 高松市保健所保健予防課

O-50 Media Activity Form による青少年のメディア利用時間と利用意識の調査

○辻田 那月¹、片岡 茉好^{1・2}、船曳 康子¹

1. 京都大学大学院 人間・環境学研究科、
2. まるいクリニック

地域連携

O-51 原発事故後の児童相談所での診察ケースからみた、低線量放射線被曝の与える神経発達への影響

中山 浩

川崎市こども家庭センター

O-52 障害児相談支援の現状－スタンダード事例と課題事例における相談支援の機能に着目して－

○内山 登紀夫^{1・3}、稲田 尚子⁴、川島 慶子²、鈴木 さとみ^{1・3}、藤尾 未由希⁴、宇野 洋太^{1・3}

1. 大正大学、
2. ふくしま子どもの心のケアセンター、
3. よこはま発達クリニック、
4. 帝京大学

O-53 神奈川県内の高等学校教員を対象とした精神保健教育の有効性に関する調査

○藤田 純一¹、高橋 雄一²、持田 訓子³、宮崎 秀仁⁴、青山 久美⁴、浅沼 和哉⁴、山本 恭平⁵、
金澤 さやか⁵、廣内 千晶⁶、中村 智朗⁷、戸代原 奈央¹、菱本 明豊^{1・8}

1. 横浜市立大学附属病院 児童精神科、
2. 横浜市東部地域療育センター、
3. 横浜創英大学、
4. 横浜市立大学附属市民総合医療センター、
5. 神奈川県立精神医療センター、
6. 神奈川県立こども医療センター、
7. 積善会日向台病院、
8. 横浜市立大学精神医学教室

少年事件・司法関連

O-54 発達障害のある人の地域コミュニティにおける社会的トラブル等の危機に対する支援に関する調査①ー緊急時支援の実態ー

○堀江 まゆみ¹、富樫 恭平²、高岸 幸弘³、小倉 正義⁴

1. 白梅学園大学、
2. 浦添市障害者（児）基幹相談支援センター てだこの森、
3. 熊本大学、
4. 鳴門教育大学

行動障害

O-55 性問題行動のある青年に対する Keep Safe プログラムの適用について

ー精神科クリニックにおける性問題行動へのグループワークの適用に関する一考察ー

○西村 岳人¹、高岸 幸弘²、堀江 まゆみ³

1. こども L.E.C.センター、
2. 熊本大学大学院人文社会科学研究所、
3. 白梅学園大学子ども学部発達臨床学科

O-56 行動障害全体の変化に影響を及ぼす支援方法の検討

○川中 瑞帆¹、岩永 竜一郎²

1. 長崎大学大学院歯薬学総合研究科、
2. 長崎大学生命医科学域

O-57 性的問題行動への介入において重要視するアセスメント領域 - デルファイ法による調査 -

○高岸 幸弘¹、相澤 林太郎²、小倉 正義³、堀江 まゆみ⁴

1. 熊本大学大学院人文社会科学研究所、
2. 国立武蔵野学院、
3. 鳴門教育大学大学院学校教育研究科、
4. 白梅学園大学子ども学部発達臨床学科

神経発達症

O-58 児童発達支援センターおよび児童発達支援事業所における発達障害にまつわる用語の認知度について～一般幼稚園・保育園との比較から～

○中林 睦美^{1,3}、濱島 努²、内山 敏³

1. 浜松市発達医療総合福祉センター、
2. 児童発達支援センター「さんぼみち」、
3. 浜松市発達相談支援センター「ルピロ」

O-59 児童関連医療・福祉施設における神経発達障害児の協調運動障害の理解や対応について：全国横断調査

○黒川 駿哉¹、澤江 幸則²、岸本 泰士郎¹、萩原 拓³、辻井 正次⁴、岩永 竜一郎⁵

1. 慶應義塾大学医学部 精神神経科学教室、
2. 筑波大学 体育系、
3. 北海道教育大学 旭川校、
4. 中京大学 現代社会学部、
5. 長崎大学生命医科学域（保健学系）

O-60 中高生の読み困難に関する質問紙作成

○柳生 一自¹、前田 珠希²、中右 麻理子³、須山 聡¹、齊藤 卓弥¹

1. 北海道大学病院 児童思春期精神医学研究部門、
2. 北海道大学医学研究科精神医学教室、
3. 北海道大学病院精神科神経科

O-61 児童思春期トゥレット障害における事象関連電位（ERP）

~~濱野 泰光~~

~~奈良県立医科大学附属病院 精神医学講座~~

○濱野 泰光^{1,2}、山室 和彦¹、水井 亮¹、岡崎 康輔¹、松浦 広樹³、石岡 希望^{1,3}、神川 浩平^{1,8}、土居 史磨¹、中島 史裕⁴、長濱 剛史⁵、岸本 直子¹、浦谷 光裕¹、太田 豊作⁶、飯田 順三⁷、牧之段 学¹

1. 奈良県立医科大学 精神医学講座、
2. 奈良県総合医療センター 精神科、
3. 奈良県総合リハビリテーションセンター 精神科、
4. 秋津鴻池病院 精神科、
5. 市立岸和田市民病院 精神科、
6. 奈良県立医科大学 看護学科人間発達学、
7. 万葉クリニック 子どものこころセンター、
8. やまと精神医療センター 精神科

LGBT 関連

- O-62 性別違和が疑われ、性腺刺激ホルモン放出ホルモンアナログを使用中に、性別移行をへの意思を翻すことになった思春期女性の1例

深尾 琢

~~岐阜大学大学院 医学系研究科 精神病理学分野~~ 岐阜大学大学院 医学系研究科 精神医学分野

ゲーム・インターネット関連

- O-63 児童思春期症例におけるゲーム・ネット使用とうつ症状について

○館農 勝^{1,2}、南波 江太郎^{1,2}、白石 映里²、矢野 亜由美²、中右 麻理子^{1,2,3}、杉山 紗詠子^{2,4}、館農 幸恵²

1. ときわ病院、2. ときわこども発達センター、3. 北海道大学病院 精神科神経科、
4. 北海道立子ども総合医療・療育センター

- O-64 当院におけるゲーム依存治療プログラムの紹介と活動報告

鈴木 りほ

社会医療法人智徳会 未来の風せいわ病院

- O-65 eスポーツ部へ参加した高校生における抑うつ、インターネット依存の傾向について

○城野 匡¹、杉本 啓介²、松本 武士²、弟子丸 元紀²

1. 熊本学園大学社会福祉学部、2. 医療法人社団松本会 希望ヶ丘病院

災害・コロナ関連

- O-66 東日本大震災後1年間に被災地域に出生した子どもの自閉スペクトラム症の検討

○吉岡 靖史¹、八木 淳子¹、柿坂 佳菜恵¹、榎屋 二郎^{2,3}、福地 成^{4,5}、松浦 直己⁶

1. 岩手医科大学 神経精神科学講座、2. 東京医科大学 精神医学分野、
3. 福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室、
4. 公益社団法人宮城県精神保健福祉協会 みやぎ心のケアセンター、
5. 東北医科薬科大学 精神医学教室、6. 三重大学 教育学部特別支援教育講座

- O-67 東日本大震災被災地域の子どもの睡眠状況の変化とメンタルヘルスとの関連について

○松木 佑⁵、吉田 弘和²、北川 佳奈³、遠藤 愛子¹、小林 奈津子¹、菊地 紗耶¹、本多 奈美⁴、大塚 達以¹、富田 博秋^{1,5}

1. 東北大学病院 精神科、2. 宮城県立精神医療センター、3. 東北福祉大学せんだんホスピタル、
4. 東北大学大学院教育学研究科、5. 東北大学大学院医学系研究科 精神神経学分野

- O-68 大学生のコロナ渦の影響による肯定的側面に関する検討

○赤津 玲子¹、辻 由依²、武田 俊信¹

1. 龍谷大学文学部臨床心理学科、2. 札幌学院大学

症例報告

- O-69 自閉スペクトラム症多発家系における遺伝カウンセリングを通じて父親の自責感が軽減した一例

○加藤 秀一^{1,2}、石塚 佳奈子⁴、名和 佳弘^{1,2}、木村 大樹¹、久島 周^{1,3}、高橋 長秀^{1,2}、尾崎 紀夫^{1,2,3}

1. 名古屋大学大学院精神医学・親と子どもの心療学分野、
2. 名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科、
3. 名古屋大学医学部附属病院ゲノム医療センター、4. 名古屋工業大学保健センター

- 「人に頼る」ことによって変化が見られた自閉スペクトラム症の大学生の症例
- 0-70 ~~「人に頼る」ことによって変化が見られた自閉症スペクトラム症の大学生の症例~~
○田上 貢^{1,2}、吉川 悟³
1. かえでクリニック、2. 龍谷大学大学院文学研究科、3. 龍谷大学文学部
- 0-71 笑いをきっかけに尿失禁した症例
○鈴木 大、元村 英史、岡田 元宏
~~三重大学医学部 臨床系医学講座 精神神経科学分野~~ **三重大学医学部 臨床医学系講座 精神神経科学分野**
- 0-72 傾聴や共感では改善しない不安を訴えた青年男性に対しリフレーミングで症状が改善した一症例
~~藤枝 周平~~ ○藤枝 周平、宋 大光
医療法人不動心 宋こどものこころ醫院
- 0-73 治療経過中に母親への心理面接を行ったことにより母子関係が安定し、精神症状に改善が認められた自閉症スペクトラム障害の一例
○鈴木 秀樹、牧野 和紀、小川 真彦、長尾 真理子
埼玉県立精神医療センター

一般演題（ポスター発表）

自閉スペクトラム症（ASD）

P-01 The Highly Sensitive Child（HSC）は自閉症スペクトラムのサブタイプである

渡部 泰弘

秋田県立医療療育センター 小児科

P-02 自閉スペクトラム症児における感覚への低反応と言語の概念形成の関連

○吉村 優子、菊知 充

金沢大学

P-03 青年期自閉スペクトラム症の社会性の障害とヒント課題の関連

○梅原 英裕¹、中村 公哉²、武田 知也³、山田 直輝¹

1. 徳島大学病院精神科神経科、2. むつみホスピタル、3. 福山大学人間文化学部心理学科

P-04 ASD 特性と抑うつとの関連におけるソーシャル・キャピタルの媒介効果

○森 裕幸^{1,3}、高橋 芳雄^{1,2}、足立 匡基^{1,2}、新川 広樹¹、中村 和彦^{1,3}

1. 弘前大学大学院医学研究科 附属子どものこころの発達研究センター、

2. 弘前大学大学院保健学研究科、3. 弘前大学大学院医学研究科 神経精神医学講座

P-05 自閉スペクトラム症の睡眠障害における少量バルプロ酸の効果

中川 栄二

国立精神・神経医療研究センター病院 小児神経科

P-06 自閉スペクトラム症者に特有の就労準備性の探索

○内田 晃裕¹、西村 大樹²、小西 菜緒¹

1. 地方独立行政法人 岡山県精神科医療センター、2. 岡山大学 全学教育・学生支援機構

P-07 小児期自閉スペクトラム症における表情認知課題下の視線活動

○岡崎 康輔¹、岩坂 英巳²、田中 宏季³、土居 史磨¹、神川 浩平¹、水井 亮¹、山室 和彦¹、浦谷 光裕¹、
太田 豊作⁴、飯田 順三⁵、中村 哲⁶、牧之段 学¹

1. 奈良県立医科大学 附属病院精神科、

2. 信貴山病院ハートランドしぎさん 子どもと大人の発達センター、

3. 奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科情報科学領域、

4. 奈良県立医科大学 医学部看護学科 人間発達学、

5. 医療法人南風会万葉クリニック子どものこころセンター絆、

6. 奈良先端科学技術大学院大学 データ駆動型サイエンス創造センター

~~P-08 激しいかんしゃくを起こす自閉スペクトラム症中学生女児の入院治療経過~~

~~取り下げ ○砂川 ひかる¹、牛島 洋景²、板垣 琴瑛¹、原田 郁夫¹、吉村 裕太¹、箱島 有輝¹、稲崎 久美¹、
水本 有紀¹、宇佐美 政英¹~~

~~1. 国立国際医療研究センター 国府台病院、2. うしじまこころの診療所~~

P-09 自閉スペクトラム症の就学前幼児（4-5 歳）における精神医学的ニーズの調査

○森 真理¹、大園 啓子¹、白馬 智美²

1. 横浜市総合リハビリテーションセンター、2. 横浜市西部地域療育センター

- P-10 自閉スペクトラム症 (ASD) のある幼児の早期療育に参加する母親のストレスの分析
 –効果的な早期親支援プログラムの開発に向けて–
 ○濱田 純子¹、石川 菜津美²、早野 留果^{2,3}、金生 由紀子²
 1. 東京大学医学部附属病院 精神神経科、2. 東京大学医学部附属病院 こころの発達診療部、
 3. 社会福祉法人 一粒 児童発達支援・放課後等デイサービス ドルフィンキッズ
- P-11 3歳児における自閉スペクトラム症の有病率の推定
 ○斉藤 まなぶ^{1,2}、大里 絢子¹、三上 珠希²、照井 藍¹、坂本 由唯¹、足立 匡基^{2,3}、中村 和彦^{1,2}
 1. 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、
 2. 弘前大学大学院医学研究科附属子どものこころの発達研究センター、
 3. 弘前大学大学院保健学研究科・医学部心理支援科学科
- P-12 自閉スペクトラム症における感覚統合療法の効果—事象関連電位を用いた検討 (第2報)
 ○金田 東奎¹、太田 豊作²、中島 史裕³、水井 亮⁴、岡崎 康輔⁴、山室 和彦⁴、岩坂 英巳⁵、飯田 順三⁶、
 牧之段 学⁴
 1. やまと精神医療センター、2. 奈良県立医科大学 医学部看護学科 人間発達学、
 3. 医療法人鴻池会秋津鴻池病院 精神科、4. 奈良県立医科大学 精神医学講座、
 5. 一般財団法人信貴山病院ハートランドしぎさん 子どもと大人の発達センター、
 6. 医療法人南風会万葉クリニック 子どものこころセンター絆

注意欠如・多動症 (ADHD)

- P-13 グアンファシンの単剤投与が奏功した注意欠如・多動症に併存した夜尿症の症例
 ○高橋 有記、木本 啓太郎、赤間 史明、大西 雄一、三上 克央、山本 賢司、松本 英
~~夫~~東海大学医学部 精神科学 ~~東海大学医学部専門診療学系精神科学~~
- P-14 ~~コロナ禍の飲酒量と関連する要因の検討—発達障害の有無と勤務形態—~~
 ○辻 由依¹、赤津 玲子²、武田 俊信² ~~コロナ禍の飲酒量と関連する要因の検討~~
 1. 札幌学院大学、2. 龍谷大学文学部 ~~—神経発達症の有無と勤務形態—~~
- P-15 自傷行為を続ける注意欠陥・多動症女児の入院治療経過
 ○黒河内 敏成、板垣 琴瑛、原田 郁大、箱島 有輝、吉村 裕太、稲崎 久美、水本 有紀、
 宇佐美 政英
 国立国際医療研究センター国府台病院 児童精神科
- P-16 グアンファシンが有効であった川崎病の既往を持つ注意欠如多動性障害の男児の一例
 ○小谷 暁子、小川 知子、高嶋 裕美子、江里口 陽介、金生 由紀子
~~東京大学医学部附属病院~~ 東京大学医学部附属病院 こころの発達診療部
- P-17 虐待的環境で生育した注意欠如多動症女児の入院治療経過
 ○杉本 佳織、宇佐美 政英、稲崎 久美、水本 有紀、吉村 裕太、箱島 有輝、板垣 琴瑛、原田 郁大
 国立国際医療研究センター国府台病院 児童精神科

摂食障害

- P-18 国立国際医療研究センター国府台病院における摂食障害の親グループの試み
 ○箱島 有輝¹、山内 萌¹、板垣 香織²、板垣 琴瑛¹、原田 郁大¹、吉村 裕太¹、稲崎 久美¹、水本 有紀¹、
 宇佐美 政英¹
 1. 国立国際医療研究センター国府台病院児童精神科、2. 国立国際医療研究センター病院小児科

入院治療

- P-19 児童精神科病棟で長期拘束を要した症例の臨床的特徴
○吉田 奈緒美¹、岩垂 喜貴¹、早川 宜佑¹、佐山 英美¹、笠原 麻里¹、佐々木 祥乃²、長沢 崇³、柳橋 達彦⁴
1. 医療法人財団青溪会 駒木野病院、2. 東日本成人矯正医療センター、
3. 東京都立小児総合医療センター 児童・思春期精神科、4. 自治医科大学精神医学講座
- P-20 児童思春期病棟で行動制限を受けた児の退院後の適応状況と主観的影響
○藤田 梓¹、加藤 康彦¹、山村 淳一¹、櫻井 類²
1. 独立行政法人国立病院機構 天竜病院、2. 吉原林間学園
- P-21 母の事故死後に複雑性悲嘆を来した女児の入院治療過程について
○箱島 有輝、原田 郁大、板垣 琴瑛、吉村 裕太、稲崎 久美、水本 有紀、宇佐美 政英
国立国際医療研究センター国府台病院
- P-22 不安から日常生活に困難を来した中学生女児の入院治療
○須山 聡¹、中右 麻理子²、柳生 一自¹、齊藤 卓弥¹
1. 北海道大学病院 児童思春期精神医学研究部門、2. 北海道大学病院 精神科神経科

外来・入院統計

- P-23 さわだメンタルクリニック児童思春期外来における初診患者の動向
○正路 智浩、澤田 将幸
医療法人春裕会 さわだメンタルクリニック
- P-24 新規開設した思春期ユニットの11ヶ月間の後方視的検討
○中川 吉丈、川久保 綾香、松居 あり子、遠藤 季哉
東京さつきホスピタル
- P-25 専門病棟開設に向けて当院の未成年患者の入院者の動向
○白木原 和薫、木村 一優、栗田 篤志、佐々木 宏太、野瀬 孝彦
医療法人社団新新会 多摩あおば病院

虐待・愛着・トラウマ関連

- P-26 児童精神科外来におけるTF-CBT（トラウマフォーカスト認知行動療法）
○岩橋 多加寿^{1,2}、奥野 正景¹、栗村 久実¹、岡田 恵里¹、村嶋 隼人¹
1. 三国丘こころのクリニック、2. 岩橋クリニック

心理社会的支援・家族支援

- P-27 自閉スペクトラム症児の養育者に対するアタッチメント理論に基づいた親子関係支援：非ランダム化比較による効果検証
○久保 信代^{1,6}、飯田 順三³、北川 恵⁴、岩本 沙耶佳⁵、牧之段 学²、岸本 年史²
~~1. 関西福祉科学大学心理科学部、2. 奈良県立医科大学精神医学講座、
3. 奈良県立医科大学医学部看護学科人間発達学、4. 甲南大学文学部人間科学科、
5. 甲南大学心理臨床カウンセリングルーム、6. 奈良県立医科大学大学院医学研究科~~
○久保 信代^{1,6}、飯田 順三^{3,7}、北川 恵⁴、岩本 沙耶佳⁵、牧之段 学²、岸本 年史^{2,8}
1. 関西福祉科学大学心理科学部、
2. 奈良県立医科大学精神医学講座、
3. 奈良県立医科大学医学部看護学科、
4. 甲南大学文学部人間科学科、
5. 甲南大学心理臨床カウンセリングルーム、
6. 奈良県立医科大学大学院医学研究科、
7. 万葉クリニック、8. 秋津鴻池病院
- P-28 当院のインターネット・ゲーム障害患者の家族に対する家族会の取り組み
佐藤 佑貴
医療法人耕仁会 札幌太田病院

P-29 当院「こころの外來」における現状報告とソーシャルワーカーの役割
○永井 直子、新井 卓、南 達哉、庄 紀子、豊原 公司、廣内 千晶、押淵 英弘、堀内 亮
神奈川県立こども医療センター

P-30 知的障害者の保護者の高齢化に伴う心理的变化や影響を与える要因について
田中 恭子
菊池病院

P-31 22q1 1. 2 欠失症候群患者の認知発達・行動に関する臨床像と支援ニーズの検討
ー前方視的な追跡調査からー
○山内 彩¹、岡田 俊^{2,3}、尾崎 紀夫²
1. 名古屋大学医学部附属病院 医療技術部、
2. 名古屋大学大学院医学系研究科 精神医学・親と子どもの心療学分野、
3. 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所

P-32 選択性緘黙児の母親が子の症状改善に取り組むまでの体験過程の分析
ー障害認知から症状改善に至るまでに焦点を当ててー
○山中 智央、井上 雅彦
鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻

精神療法・心理療法

P-33 親子相互交流療法（PCIT）の実施前後における保護者の前頭葉機能変化に関する予備的研究
○梶梅 あい子¹、早川 博子¹、尾形 明子³、洲濱 裕典²、池田 若菜⁴
1. 広島大学病院小児科、2. 医療法人翠星会松田病院、
3. 広島大学大学院人間社会科学研究科、4. 向洋こどもクリニック

P-34 親子相互交流療法（PCIT）の治療中断に関するエビデンスレビュー
○高田 美希¹、細金 奈奈²、木原 望美³、小平 雅基²、岡田 俊¹
1. 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部、
2. 総合母子保健センター愛育クリニック小児精神保健科、
3. 総合母子保健センター愛育クリニック医療福祉室

学校精神保健

P-35 教師が実施しやすいブリーフ Social Skills Education の開発 2
ー学生トレーナーによる実践の検討ー
○山口 祐子¹、久木山 健一²、伊藤 弥生³
1. 帝塚山大学心理学部心理学科、2. 九州産業大学国際文化学部、3. 九州産業大学人間科学部

地域連携

P-36 児童精神科領域の訪問看護利用の現状と課題
○青木 芳子¹、藤田 純一¹、武越 百恵¹、早川 麻耶²、菱本 明豊²
1. 横浜市立大学附属病院 児童精神科、2. 横浜市立大学附属病院 精神科・児童精神科

P-37 岐阜県における児童発達支援および保育所等訪問支援の現状と課題
○栗林 英彦¹、河村 聡子²、井川 典克³、関 正樹⁴、高岡 健¹
1. 岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター 発達精神医学研究所、
2. 岐阜県発達障害者支援センター、3. いかわクリニック、4. 大湫病院

- P-38 障害児相談支援の現状と課題－相談支援専門員、保護者、自治体への面接調査の結果から－
○稲田 尚子¹、藤尾 未由希¹、宇野 洋太²、内山 登紀夫³
1. 帝京大学文学部心理学科、2. よこはま発達クリニック、3. 大正大学

少年事件・司法関連

- P-39 発達障害のある人の地域コミュニティにおける社会的トラブル等の危機に対する支援に関する調査②－緊急時支援のケース状況から伺われるリスク因子－
○小倉 正義¹、堀江 まゆみ²、富樫 恭平³、高岸 幸弘⁴
1. 鳴門教育大学、2. 白梅学園大学、3. 浦添市障害者（児）基幹相談支援センター てだこの森、4. 熊本大学

神経発達症

- P-40 就学移行期の発達障害児の親が抱える困難に関する探索的検討
○石川 菜津美¹、金生 由紀子^{1,2}
1. 東京大学医学部附属病院 こころの発達診療部、
2. 東京大学大学院医学系研究科 こころの発達医学分野
- P-41 Wide-range Assessment of Vision – related Essential Skills と KABC- II を用いた視覚認知スキルのアセスメント
○中島 陽大¹、武田 俊信³、前田 真治²
1. 洛和会音羽病院 臨床心理室、2. 洛和会音羽病院 小児科、3. 龍谷大学文学部 臨床心理学科
- P-42 MOVES：トゥレット症に特有なチック症状と強迫症状を測定する自記式尺度の信頼性・妥当性の予備的検討
○松田 なつみ^{2,3}、野中 舞子^{3,4}、鈴木 茜音¹、藤原 麻由³、金生 由紀子^{1,3}
1. 東京大学大学院医学系研究科こころの発達医学分野、
2. 白百合女子大学人間総合学部発達心理学科、3. 東京大学医学部附属病院こころの発達診療部、
4. 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース

LGBT 関連

- P-43 児童精神及び精神科救急に携わる医師・看護師における LGBT（性的少数者）への診療態度
○早川 麻耶¹、藤田 純一²、田辺 有理子⁵、菱本 明豊⁶
1. 横浜市立大学医学研究科精神医学教室、2. 横浜市立大学付属病院児童精神科、
3. 横浜市立大学看護学部看護学科、4. 横浜市立大学附属病院精神科・児童精神科

ゲーム・インターネット関連

- P-44 ~~思春期における都市居住とインターネット依存症：思い出し法による横断的マルチレベル分析~~
安間 尚徳^{1,2,3} ~~思春期における都市居住と成人期のインターネット依存症：思い出し法による横断的マルチレベル分析~~
1. 東京大学大学院医学系研究科 精神保健学教室、
2. 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域・司法精神医療研究部、
3. 医療法人社団 順風会 上尾の森診療所
- P-45 ゲーム症の診断基準
○坂本 祥子¹、宮脇 大¹、後藤 彩子¹、平井 香²、播摩 祐治¹、角野 信¹、瀧 宏樹¹、西浦 沙耶花¹、井上 幸紀¹
1. 大阪市立大学大学院医学研究科 神経精神医学、
2. 大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学

P-46 小中高生における、ゲームに対する意識や行動傾向。長崎県内における 5,012 名（回答率：84.9%）の児童・生徒に対する調査。

○山本 直毅、今村 明
長崎大学病院 精神神経科

P-47 児童思春期におけるインターネットの依存的使用と抑うつ症状の縦断的關係

○高橋 芳雄^{1,2}、足立 匡基^{1,2}、西村 倫子³、新川 広樹²、森 裕幸²、中村 和彦^{2,4}
1. 弘前大学大学院保健学研究科、
2. 弘前大学大学院医学研究科附属子どものこころの発達研究センター、
3. 浜松医科大学 子どものこころの発達研究センター、
4. 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座

P-48 児童・思春期精神科病棟におけるゲーム障害の効果的な介入について

○加藤 康彦¹、櫻井 類²、藤田 梓¹、山村 淳一¹
1. 独立行政法人国立病院機構 天竜病院、2. 静岡県立吉原林間学園

災害・コロナ関連

P-49 COVID-19 の流行による、神経発達症のある子どもを持つ保護者のメンタルヘルスへの影響

○鈴木 さとみ^{1,2}、内山 登紀夫^{1,2}、宇野 洋太^{1,2}、蜂矢 百合子、市川 宏伸^{3,4}
1. 大正大学、2. よこはま発達クリニック、3. 日本自閉症協会、
4. 日本発達障害ネットワーク

P-50 東日本大震災後の福島県沿岸部の親子の支援ニーズの検討～子育てアンケート調査の結果から～

○内山 登紀夫^{1,2}、川島 慶子^{2,3}、鈴木 さとみ¹、安部 郁子^{2,3,4}
1. 大正大学、2. ふくしま子どもの心のケアセンター、3. 福島学院大学、4. 福島大学

P-51 奈良県立医科大学精神科児童思春期外来における初診者の現状～ COVID-19 の状況も踏まえて～

○水井 亮¹、山室 和彦¹、岡崎 康輔¹、石岡 希望^{1,2}、濱野 泰光^{1,3}、神川 浩平^{1,4}、浦谷 光裕¹、
松浦 広樹²、中西 葉子⁵、太田 豊作⁶、飯田 順三⁷、牧之段 学¹
1. 奈良県立医科大学精神医学講座、2. 奈良県総合リハビリテーションセンター 精神科、
3. 奈良県総合医療センター 精神科、4. やまと精神医療センター 精神科、
5. 堺市こころの健康センター、6. 奈良県立医科大学医学部 看護学科人間発達学、
7. 万葉クリニック 子どものこころセンター

P-52 児童思春期病棟を有する精神科病院における COVID19 の影響

○山崎 一毅、中村 充宏、井手 瑤子
横浜カメラアホスピタル

P-53 高知医療センター児童精神科の特徴と地域連携について

○大原 伸騎²、吉本 康高¹、小松 静香²、高橋 秀俊²、永野 志歩¹
1. 高知医療センター こころのサポートセンター、
2. 高知大学医学部附属病院 子どものこころ診療部

P-54 COVID-19 による学業への不安が大学生の抑うつ症状、不安症状、不眠症状や社会機能に及ぼす影響

○武田 知也¹、福留 広大¹、梅原 英裕²
1. 福山大学人間文化学部心理学科、2. 徳島大学病院精神科神経科

- P-55 COVID-19に伴う学校の長期休校・再開に関するアンケート調査 I
○塚原 さち子、中村 (熊田) 知佳、島内 智子、安藤 久美子、小野 和哉
聖マリアンナ医科大学 神経精神科
- P-56 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行により育児困難を訴えた親へ CARE プログラムを用いた危機介入
○平 理英子、細川 光代、岡島 枝里子、仙谷 倫子、山本 侑瑚、渡部 京太
広島市こども療育センター
- P-57 東日本大震災後に誕生した子どもとその家庭への縦断支援研究：保護者の精神健康と子どもの行動上の問題に関連する要因の解明
ー過去の不遇体験、震災への主観的な被害感覚、対人関係のスタイルに着目してー
○千葉 柊作^{1,2}、福地 成^{1,3}、吉岡 靖史^{4,5}、八木 淳子^{4,5}、榎屋 二郎^{6,7}、松浦 直己⁸
1. みやぎ心のケアセンター、2. 東北大学 教育学研究科、3. 東北医科大学 精神医学教室、
4. 岩手医科大学 医学部神経精神科学講座、5. 岩手医科大学 附属病院 児童精神科、
6. 東京医科大学 精神医学分野、7. 福島大学 子どものメンタルヘルス支援事業推進室、
8. 三重大学 教育学部特別支援教育講座

統合失調症関連

- P-58 思春期における発症危険状態の精神症状と唾液中αアミラーゼ値との関係
○和気 玲^{1,2}、稲垣 卓司³、松田 泰行⁴
1. 島根大学 人間科学部、2. 島根大学 医学部精神医学講座、3. 島根大学 教育学部、
4. 医療法人正光会 松ヶ丘病院

乳幼児

- P-59 「乳幼児ー親心理療法」への動機づけを高めるインフォームド・コンセントー
ー臨床家へのインタビュー調査を通してー
○井上 美鈴¹、加藤 佑昌²、下平 憲子³
1. 清和大学 短期大学部、2. 専修大学、3. 信州大学 総合健康安全センター
- P-60 青森県発達障害専門医療機関初診待機解消モデル事業の効果検証
○三上 珠希²、斉藤 まなぶ^{1,2}、大里 絢子¹、坂本 由唯¹、照井 藍¹、中村 和彦^{1,2}
1. 弘前大学 大学院医学研究科 神経精神医学講座、
2. 弘前大学 大学院医学研究科 附属 子どものこころの発達研究センター
- P-61 3歳児健診における神経発達症のスクリーニング新尺度の検証
○大里 絢子¹、斉藤 まなぶ^{1,2}、三上 珠希²、照井 藍¹、坂本 由唯¹、足立 匡基^{2,3}、中村 和彦^{1,2}
1. 弘前大学 大学院医学研究科 精神神経医学講座、
2. 弘前大学 大学院医学研究科 附属 子どものこころの発達研究センター、
3. 弘前大学 大学院保健学研究科・医学部心理支援科学科

不登校・ひきこもり

- P-62 精神疾患を抱える子ども達の不登校の背景にある要因
○中村 公哉¹、梅原 英裕²、武田 知也³、山田 直輝²
1. 医療法人 むつみホスピタル、2. 徳島大学 病院精神科神経科、
3. 福山大学 人間文化学部 心理学科

P-63 中学生におけるひきこもり重症化の要因—日仏比較研究から

濱崎 由紀子^{1,2}

1. 京都女子大学現代社会学部、2. 医療法人藤樹会滋賀里病院

謝 辞

株式会社 明石書店

大塚製薬株式会社

医療法人 清潮会 三和中央病院

塩野義製薬株式会社

医療法人緑光会 城谷病院

真珠園療養所

大日本住友製薬株式会社

武田薬品工業株式会社

ノーベルファーマ株式会社

日見中央病院

ヤンセンファーマ株式会社

吉富薬品株式会社

五十音順

2021年9月29日現在

第62回日本児童青年精神医学会総会の開催にあたり上記の皆様からのご支援を賜りました。

ここに謹んで御礼申し上げます。

第62回日本児童青年精神医学会総会

会長 今村 明

第 62 回日本児童青年精神医学会総会 役員

会長	今村 明	長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部
副会長	岩永竜一郎	長崎大学子どもの心の医療・教育センター
顧問	小澤 寛樹	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻展開医療科学講座 精神神経科学
プログラム委員	會田 千重	国立病院機構 肥前精神医療センター
	岡田 俊	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 知的・発達障害研究部
	亀岡 智美	兵庫県こころのケアセンター
	木村 一優	医療法人社団多摩あおば病院
	熊崎 博一	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 児童・予防精神医学研究部 児童・青年期精神保健研究室
	小坂 浩隆	福井大学医学部精神医学
	齊藤 卓弥	北海道大学病院 精神科神経科
	鈴木 俊介	東京都立大塚病院 児童精神科
	瀬口 康昌	独立行政法人 国立病院機構 肥前精神医療センター 精神科
	高貝 就	浜松医科大学医学部児童青年期精神医学講座
	高橋 秀俊	高知大学医学部 寄附講座 児童青年期精神医学
	館農 勝	ときわ病院・ときわこども発達センター
	中村 和彦	弘前大学大学院医学研究科 神経精神医学講座
	畠中 雄平	琉球大学人文社会学 人間社会学科
	原田 剛志	医療法人悠志会パークサイドこころの発達クリニック
	本多 奈美	東北大学大学院教育学研究科教育心理学講座・臨床心理学分野
	本田 秀夫	信州大学医学部 子どものこころの発達医学教室
	山下 洋	九州大学医学部精神科神経科 子どものこころの診療部